

## エイジレス章 受章者の事例発表

ながおか しょうぞう  
長岡 祥三 長崎県壱岐市

のぐち ちづえ  
野口 智津恵 熊本県荒尾市

えがみ けんいち  
江上 憲一 福岡県久留米市

表章式のアーカイブ視聴はこちらから：

長岡 祥三



認知症になっても安心して暮らせる壱岐の島に。人口約24,000人、高齢化率40%、福岡市博多港から1時間余りの小さくて大きな島です。父は53歳で他界。母は平成17年8月に76歳で亡くなりました。妄想や徘徊はいかいがひどく、当時どこに相談していいかも分からず、介護に悩んでおりました。このままじゃいかんばい、何とかしなけりゃと思い立ったのが今の行動です。



郵便局退職後、地域への恩返し精神を持ち、高校の恩師の助言もありながら、民生児童委員活動を13年6ヶ月やってきました。公益財団法人認知症のひとと家族の会志岐地区会(はまべの会)と申して、活動に参画をいたしました。

活動をしている中で、地域活動には防災の資格が必要だと思い、資格を取りました。災害ボランティアとして、福岡県の東峰村の自然災害、佐賀県武雄市の大水害等、仲間7、8人と一緒になり、参画をし、人の温かさや心のぬくもりを感じた次第です。活動の広がりを見せながら、単独ではダメだと。地域認知症は独りでは解決ができないのではないかとということで、地域包括支援センターとの共催で、市民公開講座を開催しました。

また、若年性認知症問題のオレンジ・ランプの上映で「良かったよ、感動したよ」と、涙を流しながら喜んでいただいたお年寄りの姿が今でも忘れられません。「認知症は接し方で100%変わる」の著者の吉田先生は、長年、認知症問題に取り組まれ、志岐でも講演をいただきました。昨年、認知症基本法が改正されました。私たちも変わらなければなりません。



9月はアルツハイマー啓発強調月間でした。私たちは毎年自分事として捉え、チラシの配布活動をやっております。その中で、今後の課題はフレイル（予防と共生社会）の実現です。これを一緒にみんなで取り組んでいこうと考えております。

活動を振り返り、今回の受章はみんなと一緒にいただいたものだと感じております。最後に一句、申し上げます。「忘れても、あなたはあなたのままでいい 今日の皆様との出逢いに感謝!! 感謝!!」ありがとうございました。



20年間老人クラブ活動に携わった事例発表をいたします。平成15年、68歳で主人が旅立ち、急な出来事でした。これからどうすればいいか悩みました。幸いにも近くに息子家族がいるので、寂しさはありませんでした。

老人会の会長さんが犬の散歩をしながら、私の様子を見てくれて、毎日来られ、そして老人会に参加することになりました。いろいろな活動をしている中、市役所の筋トレアップ体操に通うようになり、友達もたくさんでき、それから、長洲、荒尾、大牟田、玉名とボランティア活動をするようになり、踊りなどの練習をし、デイケアにボランティア活動として行くようになりました。

銭太鼓、それからたくさんのボランティア活動をして、とても楽しかったです。お茶を飲み、それから令和に入ってコロナになり、私たちはホームへ行けなくなり、どうしようかと思っていた時期もありました。

今年で21歳になった孫娘が、「ばあちゃん、今度は何人くらいおる？」と言うので、「今度は30人、50人よ」と言えば、その数よりも少し多めに鶴やコマなどを作り、このような鶴です。尾を握って引っ張りま

す。おじいちゃんおばあちゃんが喜ぶように。それから、今度はコマを作ります。これをテーブルに乗せて、くると回したら、きれいな色で回ります。このメダルを、裏には「可愛く元気でね」と書いたメッセージをして、一人ひとりに配り、とても喜んでもらっております。

私たちはボランティア活動ができなくなったけれど、孫に病院へ行くというと、施設に持っていき、プレゼントをします。仕事から帰ったら毎日のように、折っています。

そして私も小物作りが大好きなので、牛乳パックで可愛い手さげを作り、それに孫が鶴とコマとメダルを入れます。荒尾市老人クラブで一人暮らしのときにも、皆さんにプレゼントするように毎日毎日、仕事から帰ったらコツコツと折っていきます。まだ他にありますが、これで終わります。ありがとうございました。





## 江上 憲一



認知症予防普及活動の15年間をご報告したいと思います。私は6歳のとき父を病で亡くし、母の手一つで育てられました。今から25年前に、その母が介護生活となり、19年前に見送りをいたしました。87歳でした。その母は、実は認知症でした。私はそれを全然知りませんでしたので、今でいう不適切な介護をやった経験があり、今でもまだその不適切な介護が、後悔として残っており、誠に親不孝だったと反省の日々でございます。

15年前、こういう状態の介護を、これから認知症の方を介護なさる方が困られたらよくないということで、私の生かされているその役割として、この認知症予防啓発活動をすることに決めて、今に至っております。昨年までで342回の認知症サポーター養成講座を担当しているお話をしたいと思います。



久留米市は43の小学校がありますが、このスライドは小学校での認知症サポーター養成講座の学習会です。26校まで広がりましたが、5年前のコロナで、外部の出入りができなくなったことで激減しましたが、やっと今は、回復の途中です。



このスライドは大人です。小学生、中学生、高校生、大学生、それから専門学校、いろいろな分野で担当しております。これは大人の部門で、老人会です。それからいきいきサロン、あるいは介護施設、それから認知症カフェ、銀行、金融機関、あるいは宗教団体、お寺など担当しています。

これは今年の7月で、150人の方が参加しました。この会場には90人お見えになり、あとの60人の方は筑後市や大牟田市、あるいは小郡市の方がZOOMで、認知症サポート養成講座に参加しました。ということで、そういうデジタルスキルも活用して、これからもやっていきたいと思っております。



先ほど、長岡さんからもご案内がありましたが、これは世界アルツハイマーデーです。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、30年前から世界中で9月21日はアルツハイマーデーということで決められて、一斉に、認知症予防普及活動を厚生労働省が作ったチラシで配っております。

今年も我々仲間でチラシの配布を行いました。このような活動をしながら生活しているのですが、私もおかげで、親からもらった丈夫な体と、それからこの活動は一人ではできません。仲間と一緒にやるわけです。さらに今日、一緒に会場に来ている私の連れ合いのカミさんの理解と協力がなければ、こういうことはできないと思っておりますので、あと15年間、健康を維持してこの活動を頑張っていきたいと思っております。